

男女共同参画推進委員会 解散報告書

1. 解散の趣旨および活動報告

男女共同参画推進委員会は、2007年に設置された男女共同参画推進特別委員会の後継委員会として、その活動方針を継承し2011年より活動を開始した。電気学会は男女共同参画分野での活動は遅発団体であるため、男女共同参画推進の社会的動向ならびに政府の政策を把握・分析して電気学会における現状に即した実効性のある方策の立案すること目標とした。重点課題は、特別委員会の調査・分析結果より 1) 理工系分野に就学する女性の増加策 2) 理工系キャリアの継続を目指した男女共同参画啓発活動 に定めた。

委員会発足当時、理工学分野の女性就学者・研究者・技術者は他分野に比して極端に少なく、電気学会として独自の育成支援活動・広報経路開発を中心に次項2「活動の成果」に記載の活動を進めてきた。6年間の当委員会の活動期間中の統計によると、女性会員は増加傾向、女性学生会員数は比率だけでなく絶対数でも増加している。理工学系大学や学会・団体による女性技術者・研究者育成促進が広がりを見せていることから、この傾向は今後も続くと思われ。増加傾向とはいえ電気工学分野の女性技術者・研究者は少ないのが現状であり育成促進活動の継続が望まれる。内閣府男女共同参画局では文部科学省・経済産業省と連携し教育機関・産業界での理工系女性活躍支援事業を展開している。当委員会では、電気学会内で展開されている啓発イベントを内閣府男女共同参画局の理工系女性活躍支援事業の取組みを利用して広報することが効果的であると見定めた。当委員会の活動実績をもって内閣府男女共同参画局理系女子応援ネットワークに登録、理工系女子応援ネットワーク会議への参加権を得て、同局の動向に関する情報入手経路を確保し継続的に対応できるようにした。

第4次男女共同参画基本計画にて女性技術者・研究者の育成促進が提唱されるに伴い支援は加速し、男女共同参画推進では女性活躍促進に留まらず、年齢・経歴・専門性・国籍などの多様性を受入れ個々の能力を活かす「ダイバーシティ推進」に向かっている。女性活躍推進を牽引している学会・大学・団体が、男女共同参画を「ダイバーシティ推進」に関する部署に移行していることから社会的な傾向であると認められる。ダイバーシティ活用は重点課題であるキャリア継続のための有力な方策であり、電気学会員は当初よりダイバーシティに高い意識を持っていることが判明している。当委員会では、男女共同参画推進は「ダイバーシティ推進」の一部であり、電気学会における会員の活躍推進は「ダイバーシティ推進」を基盤として方策立案することが効果的であるとの結論に至った。

以上を踏まえ、理事会に電気学会における学会員活躍推進のため「ダイバーシティ推進」に関する議論を活性化することを要望し、男女共同参画推進委員会は電気学会における男女共同参画推進の初期段階の役割を果たしたため3月を以て解散することとする。

2. 活動の成果

当委員会の活動に関して、以下の事項についての活動報告と分析所見を別添資料にまとめた。

*詳細は別添資料（活動報告、電気学会女性会員数_各種比率、男女共同参画推進委員会活動一覧）を参照のこと。

1. 電気学会における男女共同参画推進状況調査

- ・女性会員の在会状況
- ・女性会員の推移

2. 男女共同参画推進の社会的動向ならびに政府の政策の把握のために参加・連携した各種団体

- ・内閣府男女共同参画局 リコチャレ応援団、理工系女子応援ネットワーク
 - ・男女共同参画学協会連絡会
 - ・独立行政法人国立女性教育会館
 - ・他団体・学会の動向調査
- 3. 電気学会における男女共同参画啓発活動
 - ・シンポジウム、講習会の開催
 - ・学会誌への記事掲載
- 4. 女子中高生理工系進路選択支援
 - ・女子中高生理工系進路選択事業「夏の学校」（国立女性教育会館主催）参加
 - ・女子中高生理工系進路選択「理系ゴコロのススメ」主催